

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275800223		
法人名	(有)弥生トータルプランニング		
事業所名	グループホームぬくもりの家		
所在地	大網白里市永田956-5		
自己評価作成日	平成29年1月19日	評価結果市町村受理日	平成29年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	平成29年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>民家改造型のメリットを十分に活かし、利用者さま本位で安心かつ一人ひとりが能力に応じて自立した生活が出来、安全で常に利用者さまの笑顔が見られるように支援していきたい。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は、理念である「笑顔で安心できる穏やかな暮らし」を意識しながら日々のケアに取り組んでいる。利用者6名の小規模なホームは自然に恵まれた環境にあり、ひとつの家族のように暮らしている。運営に関して職員各々が役割を持ち、アイデアを持ち寄りながら全体会議に臨んでおり、利用者の生活の質の向上を目指した支援に取り組んでいる。職員の定着率がよく、長年勤務している職員が多いので利用者一人ひとりについてよく理解しており、個々を尊重した支援に努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔をもっと理念を共有し、その実践に向けて日々取り組んでいる。	ホームの理念は「笑顔で安心できる穏やかな暮らし」である。職員は理念の実践に向けて、自覚を持って利用者に向き合うよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の河川敷清掃、公民館の掃除等は必ず参加している。また散歩に出かけた際に必ず地区住民の方々と「笑顔」で挨拶を交わしている。近隣の住民からは季節の野菜や果物を頂くこともある。	ホーム周辺も高齢化が進んでいる。地域課題も意識しながら、地域との関係性を築くよう努めている。年1回実施している救命救急の訓練は地域住民にもチラシを配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館の清掃、老人会の行事に積極的に参加して、地域に溶け込み相互の理解を深めている。また地域住民の方々と防災活動、救命訓練などの参加を呼びかけ地域との一体化を通じて理解や支援を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員や老人会の責任者に対してホームの理解を得られるように2か月1回会議を開催している。また必要に応じて説明している。	市の担当課、民生委員、利用者の後見人などが参加して年6回開催している。運営推進会議で情報をもらい、市から貸し出しを受けて無線を設置するなど、地域の情報収集の場にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	機会あるごとに市役所などを訪問して必要な情報を入手するほか、市の保健会議のメンバーとして会議に出席している。また自治体からの行政指導や必要な相談ごとには随時対応している。	運営推進会議に市の担当課職員の出席があり、意見交換や情報交換をしている。認知症カフェの情報提供もあり、利用を考えている。また、ホーム側からも窓口に出かけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスや日常の申し送り、更に研修等に積極的に参加して、常に安全で開放的なケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する正しい理解をしてほしいと、県主催の研修は全職員が受講している。玄関の施錠もせず、見守りを徹底し、家庭的なケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連する専門誌、新聞、雑誌等を切り抜きするなどして、職員に参考資料として回覧するなど、注意喚起や周知を徹底させ防止策に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	経営者(行政書士)が千葉県後見人支援センターの理事の経験者であり、機会ある毎に自立支援や成年後見人制度について学習している。また市の包括支援センタからも常時相談する機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に権利義務を明記し、利用者や家族などに不安や疑問点に対して十分な説明を行い理解を得て納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見や不安・苦情を説明できる機会を事あるごとに設けて運営に反映させている。	職員は利用者の居室で個別にゆっくりと話を聞き、意見を引き出すようにしており、できる限り反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回会議を開催して出席できない職員に対しては会議課題に対する意見を提出させている。更にはスキルアップを希望する職員には各種の研修に可能な限り参加させている。	職員はホームの運営についてそれぞれ役割を持っており、スタッフ会議には提案や意見を持ち寄っている。出された意見は管理者が法人に伝えるなど、風通しの良い環境がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの家事都合と希望休暇を多く取り入れるなど、スタッフが職務バランス調整を相互に図るシステムを設けて意見交換できる雰囲気を作っている。また個々の努力や実績勤務を客観的に照らして人事評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修を受ける機会をと取り入れて働きながらトレーニングを積むことを勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とは必要に応じて電話による連絡・情報交換や相互訪問等で交流を深めている。一方、全国のGホーム協力会に加盟しており、同協会から情報を得てサービスの向上に取り組んでいる。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	人が困っていることなど本人自身から積極的に聴取して信頼関係を作ることに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が施設を訪問した際には、日頃の利用者本人の様子について説明し、困っていること、不安なことなど各要望事項をよく聞き、信頼関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族が必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は決して先立つことなく、利用者と同じ目線で過ごしながら支え合う関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	喜怒哀楽を共にしながら、家族との連絡を密にして相互の信頼関係を構築することに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないようにその機会づくりに努めている。また利用者の友人等の訪問を歓迎している。	管理者は利用者と親族との関係性を大切にしており、利用者の個人的なお小遣いは家族に直接届けてもらうよう依頼し、ホーム来訪の機会をつくっている。また、家族には利用者と一緒に外出することも勧めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係をよく把握してさりげなく係るように意識している。一方、利用者同士も互いに各人の部屋を訪問している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移ったケースにおいても家族の相談があれば利用者に対する継続的支援には応じる態勢である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人に暮らし方の希望や意向を適宜適切に聞き、本人の意向に沿うように努めている。	入居時の聞き取り以外にも、日頃の会話を通して本人の希望等を聞き取るようにしている。把握した内容はモニタリング表に書き込んだり、日々の申し送りノートに記入して情報の共有に努めている。また、担当者会議においても確認し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方をよく把握し、馴染みの暮らし方を維持・継続することが可能となる生活環境をつくることに心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの状況を日々把握しながら一ひとり応じたケア、フォローを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のスタッフ会議において、より良い暮らしを過ごせるように各利用者ごとに適した介護計画を作成している。	家族や利用者の意向、職員の意見や情報をもとに、介護支援専門員が介護計画を作成している。また、毎月のスタッフ会議でモニタリングをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの介護日誌を詳細に記録に留めて職員同士が情報を共有して日常の介護に活かしている。特に夜勤から日勤への申し送りについては十分な時間をとり、その都度適切な態勢で臨んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に即対応可能な態勢を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要に応じて、地域と協力しながらの支援態勢である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医院である「岡崎医院」に月1度往診してもらっているほか、常に緊急時でも対応可能な態勢を整えている。	医師の往診前に利用者についての情報を報告し、適切な診察が受けられるように支援している。協力医には利用者の状況に応じて助言を得ている。通院時は職員が同行し、診察記録ノートに記録して家族にも報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的健康管理を実施しているとともに、適宜適切な医療機関活用を行う支援態勢である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時における協議、入院中での対応、あるいは早期退院に向けての医療機関との担当者会議に出席するなど、医療機関との関係をより密にしてして常に情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針は掛かりつけ医とよく相談して方針を決めることにしている。	ホームでは看取りは行っていないため、入居者の身体機能の低下に伴い医師の助言を元に家族と話し合い、病院、または施設を紹介している。退去契約書によって、次の移転先が確実に決まるまで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員間の緊急連絡網の常備、定期的な防災・救命訓練の実施等各職員が常に緊急事態に対応可能なような訓練や意識を周知徹底している態勢である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難計画マニュアルを作成して伝達・通報態勢や避難方法・場所等を見える場所に掲示し、全職員が避難計画に沿って行動が可能となるよう指導・訓練を重ねている。また地域、自治体、消防等との関係を密にしている。	過去には実際に公民館に避難する訓練を行ったことがある。近隣住民は高齢化しているので、災害時は住民を救済する側になると予想している。訓練は年に数回会議の前に行っており、水、お米、缶詰など数日分を備蓄している。また、常時浴槽に水を溜めておくようになっている。	避難マニュアルを作成し、全職員が行動できるように訓練を行っている。訓練記録を作成することで、より課題も明確になると思われ、今後の期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対する言葉かけ、対応記録などにおいて、個人の尊厳を守り、誇りを傷つけないことを意識している。また個人情報の管理・取扱いには十分注意を払っている。	長年勤務している職員が多く、利用者一人ひとりについてよく理解しており、その人が嫌だと思ふことも把握している。その上で個々を尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外食、美容、買い物など直ぐに応じている。また日常生活の中でも利用者が積極的に活用できるように選択場面を広げる工夫を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の好みの歌やテレビ番組など、一人ひとりの好みを大切に、且つ他の利用者との兼ね合いを調整しながら希望に沿った支援を実践。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に清潔を心掛けて美容院(カット、パーマ等)に行くこと、化粧品を希望に応じて購入するなど、おしゃれを楽しむ支援を実践。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にとり食事はメインとの意識を持ち、苦手食材を承知しているほか、材料が同じでも食事内容が異なる工夫、歯の無い利用者に対しては食べやすい内容など献立を創意工夫している。同時に生活当番を決めて、食事の準備、かたづけなどメリハリのある生活感を持たせている。	食材は業者から仕入れて職員が調理している。職員は利用者と一緒に食事をしており、食材等が利用者に合わない判断した際は変更してもらっている。また、利用者も当番で片付けなどに参加しており、当番表を掲示している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算のできる食材を取り寄せているほか、栄養バランスを考えて3品以上の副食品を添えている。ご飯量は個人に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回食後の歯磨き、更には薬用マウスウオッシュを励行している。また入れ歯の方には毎晩ポリドントを実施している。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	さりげなく声をかけるほか、本人の習慣を大切に活かしてトイレでの自立排泄を支援している。	排泄チェック表により、一人ひとりの排泄パターンを把握している。普段から水分補給や運動を促し、自然な排泄に向けて支援している。夜間はポータブルトイレを使用するなど、個々に沿って支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の便チェック、水分、食事に気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夏は週3回、冬は週2回と極力利用者の希望に沿う方法で入浴をしている。	浴室内はすのこなどで段差を解消するなど、安全に入浴できるよう配慮している。入りたくないという利用者には無理強いせず、言葉かけの工夫などで入浴してもらえるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個人の生活習慣を尊重して安眠や休息が可能な態勢を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々人の服薬目的と用法・用量を職員が把握し、更に服薬の確認のために服薬記録を作成している。また病状の変化についても常に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの能力、体力を念頭に置きながら根気強く接し、本人の役割や楽しみがより豊かになるように創意工夫を常に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設外での希望に沿う外食や購入したい物があれば自分で選べる外出支援を行っている。天気の良い日は散歩に出ているほか、地域の行事には積極的に参加し、外出することにより生活感や地域とのかかわりを意識させる工夫をしている。	春には花見に出かけるなどして季節感を大切にしている。庭先には大きな栗の木があり、栗拾いは利用者の楽しみの一つとなっている。また、年に数回はファミリーレストランで食事を楽しんでいる。家族の来訪時には一緒にお茶を楽しめるように店まで送迎することもあるなど、利用者の外出支援に努めている。	

グループホームぬくもりの家

自己評価・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームが管理しているが、買い物等は本人の希望に沿えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも家族や大切な人との電話や手紙のやりとりができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居宅をそのままに残した玄関、共有スペースのメリットを十分に活かした空間の工夫。庭に梅、柿、栗、柚子など四季に応じてそれを収穫できるなど年間を通じて季節を感じられる家庭的な居場所を設置している。	普通の民家をそのまま利用しており、家庭的な空間である。季節を感じさせる利用者の作品を壁面に飾っている。また、ベランダから出入りできる庭には果実がなる木を植えており、収穫も利用者の楽しみになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間から直接ウッドデッキや庭に出られるなど、直接、外気に触れて目、肌、耳など五感で感じられる雰囲気づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓され、好みの絵画や写真を飾るなど長期にわたっても居心地の良い居住空間に可能な限り配慮している。	居室は畳の部屋が多い。それぞれ自宅から写真や位牌など大切な物を持って来て、居心地のよさそうな居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全職員が利用者のひとり一人の状態を把握しており、建物内部の安心・安全に配慮して自立した生活習慣が十分に可能なように支援態勢を創意工夫している。		

【評価機関】